

稲畑産業

稲畑産業は、長期ビジョン「IK Vision2030」を策定した。同社はこの4月から中期経営計画「NC2020」を始動しているが、長期ビジョンは中計最終年度の2020年度の先となる25年から30年の同社のありたい姿を描くものとなっている。

IK Vision20

30では、同社の機能として商社を基本としながら、製造、物流、ファイナンスなどの複合的な機能の一層の高度化を図ることを想定。連結売上高1兆円以上の早期実現と海外比率70%以上、情報電子と合成樹脂以外の事業比率の3分の1以上への引き上げを目標としている。

NC2020は、この長期ビジョンの達成に向けた最初の4カ年中計となる。重点施策として海外事業のさらなる拡大と深化、成長が見込める市場・未開拓分野への注力、グローバルな経営情報イン

早期に連結売上高1兆円

フラの高度化、商社ビジネス拡大に向けた投資の積極化、保有資産の継続的な見直しと財務体質の強化、グローバル人材マネジメントの確立の6つを掲げている。

「新中計は基本的に前中計を踏襲している。6施策すべてが重要だが、とくにグループ全体最適の徹底と海外事業のマネジメントの高度化と標準化を行う『グローバルな経営情報インフラの高度化』に関しては早期に進めていきたい」（稲畑勝太郎社長）。事業分野では、北海道で展開しているブルーベリーの栽培など、食品分野を含む農業分野への取り組みを強化していく方針で、将来の事業柱としての育成を見込んでいる。

なお、独連結子会社において販売予定先が太陽電池モジュールの在庫を無断で売却した案件については、再発防止策を策定し対応を進めていく。